

## 第302回くらしの植物苑観察会 令和6年5月24日（金）

## 『源氏物語』に見られる植物

島津 美子 当館情報資料研究系 准教授

平安時代中期に書かれた『源氏物語』は、日本の古典文学としてもっとも世に知られた小説のひとつといえる。物語では光源氏の恋愛遍歴を通して、さまざまな女性たちが描かれ、彼女たちの多くが植物と関連付けられて表現されている。今回の観察会では、『源氏物語』に見られる植物のうち、登場する女性たちのイメージに結び付いている植物を中心に苑内散策を通して紹介する。

## 1. 帖の名称と植物

『源氏物語』では作中 100 種類以上の植物が書かれていることが知られている。物語を区分する全 54 帖の帖の名称にも植物の名称が多く使われており、いくつかは光源氏と恋愛関係にあった女性たちを表すものとなっている。以下に、54 帖の名称を挙げ、植物に関連する語（18）に下線を、相手女性の代名詞となっている語（5）には二重下線を引いた。波線の下線は次項で紹介する女性の代名詞となっている帖名。

<u>桐壺</u>	<u>帚木</u>	<u>空蟬</u>	<u>夕顔</u>	<u>若紫</u>	<u>末摘花</u>	<u>紅葉賀</u>	花宴
<u>葵</u>	<u>賢木</u>	<u>花散里</u>	須磨	<u>明石</u>	滯標	<u>蓬生</u>	関屋
絵合	<u>松風</u>	薄雲	<u>朝顔</u>	乙女	<u>玉鬘</u>	初音	胡蝶
蛩	<u>常夏</u>	篝火	野分	行幸	<u>藤袴</u>	<u>真木柱</u>	<u>梅枝</u>
<u>藤裏葉</u>	<u>若菜</u> 上	<u>若菜</u> 下	<u>柏木</u>	横笛	鈴虫	夕霧	御法
幻	匂兵部卿	<u>紅梅</u>	<u>竹河</u>	橋姫	<u>椎本</u>	総角	<u>早蕨</u>
<u>宿木</u>	東屋	浮舟	蜻蛉	手習	夢浮橋		

帚木（ははきぎ）：「帚木の心をしらでその原の道にあやなくまどひぬるかな」（光源氏）

「数ならぬ伏屋に生ふる名のうさにあるにもあらず消ゆる帚木」（空蟬）

\* 帚木は信濃国にある遠くから見ればホウキを立てたように見えるが近づくと見えなくなるという伝説上の木。『古今和歌六帖』に載る。

末摘花：ベニバナの古名

賢木：「神垣はしるしの杉もなきものをいかにまがへて折れるさかきぞ」（六条御息所）

「少女子があたりと思へば榊葉の香りをなつかしみとめてこそ折れ」（光源氏）

常夏：ナデシコの古名。「なでしこのとこなつき色を見ばもとの垣根を人や尋ねむ」

花散里：「橘の香をなつかしみほととぎす花散る里をたづねてぞとふ」

## 2. 六条院での衣配り

光源氏は 30 代半ばに自身の邸宅として六条院を造営した。そこに住まうことになった女性たちは源氏が若いころから関係してきた人たちであり、初めて迎える正月に向けて、光源氏がそれぞ

れに贈る衣装を選ぶシーンが「玉鬘」の帖の書かれている。ここで登場するのは、六条院の春の町に住む紫の上、娘である明石の姫君、夏の町に住む花散里と養女である玉鬘、北の町に住む明石の君、元の邸宅である二条院近くに造営した二条東院に住む末摘花と空蝉である。

光源氏が彼女たちに選んだ衣装は以下の通り（円地文子訳「源氏物語」および参考 URL「源氏物語の世界」による）。

紫の上：紅梅の文様のある葡萄染のこうちぎ小桂、紅花染（流行り色）のもの

明石の姫君：さくらがさね桜襲の細長に、つややかなるかいねり搔練（紅色）

花散里：波や藻、貝の文様のある薄い藍色のもの、濃い紅の搔練

玉鬘：赤く山吹の花の細長

末摘花：柳の織物に唐草模様のあるもの

明石の君：梅の折枝に蝶や鳥を散らした異国風の白い小桂、こい紫のつやのあるもの

空蝉：あおにびいろ青鈍色の織物、くちなしいろ梔子色のもの

番外編：「ムラサキ」のつく植物

1) ムラサキシキブ

源氏物語の作者の名を冠する植物。APG 体系ではシソ科ムラサキシキブ属とする。紫色の実が重なるようにしてなることから「ムラサキ重実（シキミ）」と呼ばれていたことから転じたとされる。紫式部と同じ音であることもてんか転訛のひとつの要因と思われる。

2) ムラサキ

根を生薬あるいは紫色の染料として使ったムラサキ科ムラサキ属の植物。もともとは日本列島全域に自生するが、環境悪化により現在は絶滅危惧種となっている。

参考 URL：

源氏物語の世界（渋谷栄一） <http://www.sainet.or.jp/%7Eeshibuya/>

古閑素子（1964）「源氏物語と植物：植物使用の効果」、国文研究、10、pp.21-42（熊本県立大学学術リポジトリにて全文公開）。

ムラサキ 日本の伝統文化と植物科学を結ぶ「紫」の糸—絶滅危惧植物ムラサキをめぐる昔と今—（京都大学） <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-05-18>

.....

**次回予告** 第303回くらしの植物苑観察会 令和6年6月28日（金）

※平日開催となります。ご注意ください。

「クローズアップ樹木年輪—幾何学的美—」

箱崎 真隆（当館情報資料研究系 准教授）

13:30~15:30 くらしの植物苑 東屋 申込不要